

韓国の小学校における課外活動

—방과후학교(放課後学校)への参加から感じたこと—

文学部 日本語日本文学科

秋葉多佳子

日本の小学生は学校の授業が終わった後、家に帰って遊んだり、塾で勉強したり、習い事に通ったり色々なことをして過ごします。近年では学童保育に通う子どもも多いかと思います。では、日本と類似した教育制度を持つ韓国の小学生は放課後をどのように過ごしているのでしょうか。本稿では、韓国の小学生の放課後の学習活動の一つ、방과후학교(以下、放課後学校)について紹介した後、放課後学校に私の子どもが参加した経験を通して感じたことを書きたいと思います。

まず、放課後学校とはどのような課外活動なのかについて説明します。韓国の教育庁等が運営している放課後学校ポータルシステムでは、放課後学校のことを以下のようにまとめています。

・児童・生徒と保護者の希望や選択を反映して、参加者の負担や財政支援により成り立つ正規授業以外の教育及び学童保育、学校の計画に沿った一定期間継続して行われる学校教育活動(筆者訳)

上記の説明によると、放課後学校は学校教育活動の一環として行われているものであることがわかります。では、その実施目的はどのようなもののでしょうか。放課後学校の設置目的は実施する地域によって異なりますので、本稿では後ほどプログラムを紹介する放課後学校を運営している慶尚南道教育庁が2022年に発表した「2023年放課後学校運営計画」における目的を紹介します。慶尚南道教育庁が定めた放課後学校の運営上の目的は以下の3点です(全て筆者訳)。

1. 学生に合わせた形の放課後学校の運営により多様なプログラムを提供し私教育費を軽減すること
2. 多様で創意的な教育経験を提供することにより学校教育の機能を補完・拡大すること
3. 社会的弱者に放課後学校の支援を拡大することにより教育格差を解消すること

上記のように、慶尚南道教育庁では「私教育費の軽減」「学校教育の機能補完・拡大」「教育格差の解消」の3つを主な目的に定めています。放課後に過ごす場所という意味では日本の学童保育と似ていますが、日本の学童保育は放課後の生活の場として位置付けられているのに対して、韓国の放課後学校は教育問題や社会問題を解決することを目指したものであるという点で異なることが分かります。

では、実際の放課後学校ではどのような活動がどのように行われているかについて、私の小学校1年生の子どもが実際に参加した放課後学校について、①参加に至った経緯、②参加した放課後学校のプログラム、③実際に参加した活動について書きつつ、そこから感じたことについてまとめます。

参加に至った経緯についてですが、子どもの夏季休暇に韓国に旅行する際、何か参加できる行事・学習活動はないか探したことから始まりました。塾や習い事について調べるうちに、小学校に設置されている放課後学校について知りました。現地の小学校に通う子どもを対象にしているため参加は無理だろうと家族から言われましたが、一度、実施校に聞いてみることにしました。いただいた返事は参加可能、定員を満たしていないプログラムにはすべて参加してよいとのことでした。振り返ってみると、現地の小学校に通わない子どもの参加が許された理由としては、子どもの住民登録がその小学校の学区内にあり、以前「進学猶予届」を出していたことや、放課後学校は有料のプログラムであり追加での参加は運営上の利益につながるということが考えられます。おそらく、現地の小学校に何らかのつながりがない場合は参加が難しかったのではないかと思います。

参加ができると決まったので、子どもが参加する予定の放課後学校にはどのようなプログラムがあるのか小学校のホームページで調べてみました。以下の表は、放課後学校の8月のプログラムの一部です。

表1 慶尚南道の小学校における放課後学校プログラム（一部）

講座名	活動曜日	活動回数	該当学年	受講料
読書論述	火曜日	週1回	1～6	25000ウォン
ロボット科学	水曜日	週1回	1～6	22000ウォン
美術	木曜日	週1回	1～6	27000ウォン
放送ダンス	金曜日	週1回	1～6	22000ウォン
バンド	火曜日	週1回	3～6	42000ウォン
歴史	月曜日	週1回	1～6	22000ウォン

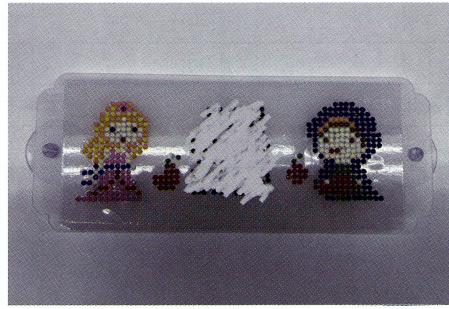
料理	金曜日	週1回	1～6	38000ウォン
英語	月・水・木	週3回	習熟度別	35000ウォン
楽しい数学教室	火・木・金	週3回	1～6	33000ウォン
クレイアート	月曜日	週1回	1～6	35000ウォン
漢字速読	水曜日	週1回	1～6	22000ウォン

上記の表では11の講座を紹介しましたが、この小学校では他にもソフトウェアコーディング、音楽縄跳び、そろばん暗算、コンピューター、ルービックキューブと、全部で16の講座が開かれていました。講座の種類としては読書、ロボット科学、ダンス、料理と多様な活動が提供されており、受講料も1か月30000ウォン前後（2023年10月30日現在のレートで3324円）と安価に設定されています。また、当小学校の放課後学校には自由受講券の支援といった特別な援助も受けることができるということです。

このプログラムを見て私が強く感じたことは、「子育て問題」「教育格差」という社会問題に国が注力しているということです。少子化については韓国でも以前からかなり深刻な問題として捉えられています。この放課後学校における受講料の設定は、子育てにかかる経済的負担にしっかりと配慮されたものだと感じました。教育格差は経済的な要因によっても起こりますが、地理的な要因によっても起こると考えられます。大都市であれば利用者のニーズも多く様々な芸術・学習活動を行うことができる塾が開かれていますが、中小都市では数は限られてくると思います。この放課後学校のプログラムは多様なプログラムを安価に設定することで、経済的・地理的な要因によって起こる教育格差を縮める取り組みとなっていると感じました。

最後に、実際に参加したプログラムについて書きたいと思います。定員に余裕があるプログラムの中から子どもに興味があるものを選んでもらい、美術、放送ダンス、クレイアートに参加することにしました。美術では水彩画の描き方を習い、放送ダンスでは韓国のアイドルグループのミュージックビデオに合わせて踊る練習をしました。クレイアートでは、粘土を使って自由に作品を作ったり、車のフロントガラスに置く電話番号プレート¹を作ったりしたということです。以下の写真はクレイアートの授業の様子、作成したプレート、ダンスの授業の様子です。

1 韓国では車を移動してもらいたいときや駐車中の車への接触などで、車の持ち主に連絡することが多くあります。そのため、車のフロントガラスに電話番号の書かれたプレートを置いておく人も少なくありません。



小学校の放課後学校の3つのプログラムに参加して感じたメリットとしては以下のような点が挙げられます。

- ・多様なプログラムに気軽に参加することができるため、子どもが何に興味・関心を持っているのかが分かる
- ・子どもの興味に合わせて気軽に始めたりやめたりできる
- ・他学年の子どもと交流できる
- ・夏休み中も子どもに多様な経験をさせることができる
- ・夏休み中も学校に通うことによって、休み明けに学校に通う際の抵抗感を減らすことができる

上記の他にも、私の子どもにとっては、通ったことのない韓国の小学校の教室に入ることや、同年代の子どもが話す韓国語に触れること、家族以外の大人が話す韓国語に触れることもいい刺激になったようです。

最後に、放課後学校の役割についての私の考えを書きたいと思います。この放課後学校の取り組みは「私教育費の軽減」「学校教育の機能補完・拡大」「教育格差の解消」の達成に加え、「地域との協働」につながるものなのではないかと考えます。韓国の放課後学校の講師は学校の教員ではなく、各地域の教育庁のホームページにおいて一般の人に広く募集されています。地域社会で活躍する人が放課後学校の講師となり、学校で子供たちの学習活動を支援することにより、地域社会と学校がともに子どもたちの教育に携わる場になるのではないのでしょうか。

以上、本稿では韓国の放課後学校を紹介し、実際の参加経験を通して感じたこ

とについて書きました。海外の教育事情を知ることは、自分が受けているあるいは受けてきた教育を客観的に振り返るいい機会にもなります。機会があればまた韓国の教育事情について紹介したいと思います。

参考文献・サイト

경상남도창원교육지원청(2022) 「2023. 방과후학교 운영 계획」

<https://cwedu.gne.go.kr/cwedu/na/ntt/selectNttInfo.do?nttSn=2491665>

(最終閲覧日：2023年10月30日)

교육부・학교교육개발원 「방과후학교포털시스템」

<https://www.afterschool.go.kr/> (最終閲覧日：2023年10月30日)